

3月8日富士山観望会

3月8日(土)、2ヶ月ぶりに富士山まで出掛けてきました。

日没前には観望地に到着。かなり寒く、このときの気温は既に氷点下 1℃。下界では気温も上がり既に春の陽気だというのに、富士山二合目は相変わらず極寒の世界です。

今夜の参加者は総勢 9 名。この時期にしてはまずまずの参加人数です。先月の悪天による中止の反動でしょうか。黄砂の影響も心配されましたが、幸いその影響もほとんどなく冬の対象から春の銀河巡りを堪能する事ができました。

ミラーが冷えた頃合いを見て西に傾いた冬の対象から観望を開始しました。

印象に残った対象を幾つか紹介します。

・**NGC2419** やまねこ座にある最遠の球状星団。

推定距離 30 万光年で銀河系のどの群にも属さない位置にあり、**Intergalactic Wanderer**(銀河の放浪者)の別名を持つ対象。シーイングが悪くて 37 センチでも星々の分解は無理でしたが、幽玄さを漂わせるその妖しい姿が好きです。

画像では N2419 が隣の二つの恒星と等距離に並んで見えますが、小口径で見ると注意しないとほとんど判りません。

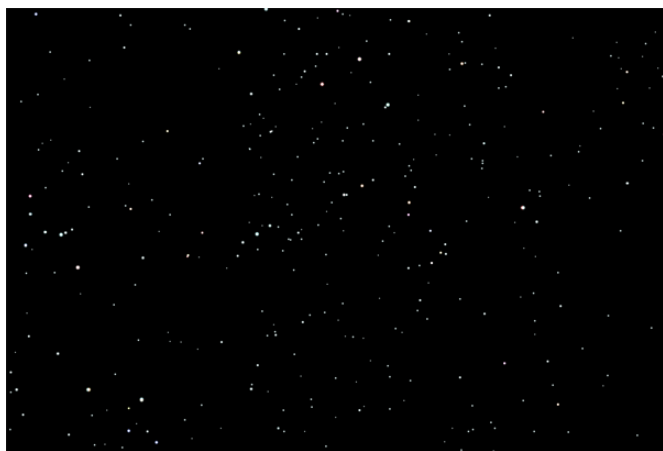


・**-3cluster**

以前にも紹介したシリウスの北東にある「-3」の形をした特徴的なアステリズム。

ちょうど重星仲間のサイトで話題になっていたのも久しぶりに見ましたが、その見事なまでの配列には思わず笑みがこみ上げてきます。正式な学術名は付いていないようですが、見ている本当に楽しい対象です。アステリズム全

般に言えることですが、特にこの対象は正立系の望遠鏡で見ないと「-3」のイメージを浮かべるのは困難です。



・NGC2261 ハッブルの変光星雲

私はこの星雲を見ると、いつもタバコのピースのデザインでお馴染みの鳩が飛ぶ姿を連想してしまふ。

N4-12 mmと×2 パワーメイトの組み合わせだと、羽の部分の濃淡がはっきりと確認できました。

**・NGC2264 クリスマスツリー**

ハッブル星雲の北東にある散開星団です。これも立派なアステリズムなんでしょうね。

この画像ではクリスマスツリーが逆さまに見えています。ベツレヘムの星の位置に並んでコーン星雲が見えていますが眼視では全く見えませんでした。

星列の中で一番明るい S 星は不規則変光星として有名な星ですが、4.7-7.6 等、角距離 2.9" の重星でもあります。この付近に広がる星間物質の影響からかいつも分離確認に苦労させられる星です。

**・NGC2392 エスキモー星雲**

やはり冬を代表する惑星状星雲を見ないわけには行きません。ファインダーで見ると隣の恒星と二重星のように見えます。エスキモーのフードの部分もうっすらと滲んで見え、顔の濃い部分と中心星はよく判りました。

17P/Holmes のバースト初期頃の姿に本当に似ています



他にもたくさん見たのにあまり記憶に残っていない…。冬の対象ではこんなところですか。

続いて参加の皆さんの機材を紹介します。

ハセガワさんの ATLUX+FS128。

このアトラクス、普段はご自宅のドーム内に固定しており、クマも現場で見たのは初めてでした。環の傾きが小さくなった土星を見せてもらいましたが、シーイングは 6/10 程度ながらもかなり切れ味の良いカッシーニが拝めました。衛星も幾つか見えましたね。



Photo by ヒデアキ

となりではヒデアキさんがドブでDSOをスケッチしています。このドブ、40cm ミラー以外はすべて自作で、Obsessionをモデルにしただけあって確かに外観は良く似ています。彼のドブはサウスポー仕様ですね。



Photo by クマ

Fukudaさんが新たな得物MT130でおおぐま座周辺の銀河を見えています。

なかなか良く見えましたよ。



Photo by クマ

私の Ketty ドブ

ドブをセットして光軸調整を終えた後の一枚。

気温は -2°C でガチガチ震えている姿です。



Photo by ヒデアキ

続いて本日のメインとなる春の銀河を立て続けに 50 個ぐらい見た中から、やはり印象に残ったものをいくつか。

・NGC3718&NGC3729

北斗七星の近くにあるツインズ。
N3718 は見ての通り斜めに切れ込んだ暗黒帯が特徴の特異銀河ですが、単位面積当たりの輝度が高いのかバルジ部分は N3729 の方が明るく感じます。暗黒帯はほとんど判りません。N3718 の直ぐ南に HCG56 が並んでいますが、今夜のコンディションでは存在すら確認できませんでした。



・NGC2683

やまねこ座にある棒渦巻き状銀河
やまねこ座といってもおおぐまの星々を辿って導入します。
Sc 型銀河特有の渦巻き構造は全く判らず、スピンドル状銀河のように見えます。かなり大きくて見易い対象でした。



・HCG44

γ Leo のすぐ北にある NGC3190 を中心とした密集銀河団。
その昔パロマ天文台で撮影された写真の印象が未だに強烈に残っています。
Hickson Compact Group の中では最も見易い対象のひとつで、条件が良いと 4 個の銀河の群れた姿が見えますが、この日は 3 個までが精一杯でした。



・NGC5746

おとめ座の西の端にあるエッジオン銀河。

写真のような暗黒帯はほとんど見えず、N2683 同様のスピンドル状に見えました。画像下の NGC5740 もコアのしっかりした銀河です。

この直ぐ東には M5 があり、その間にも幾つかの DSO が見えており、DSO ホッピングが楽しめる領域です。

**・3C273**

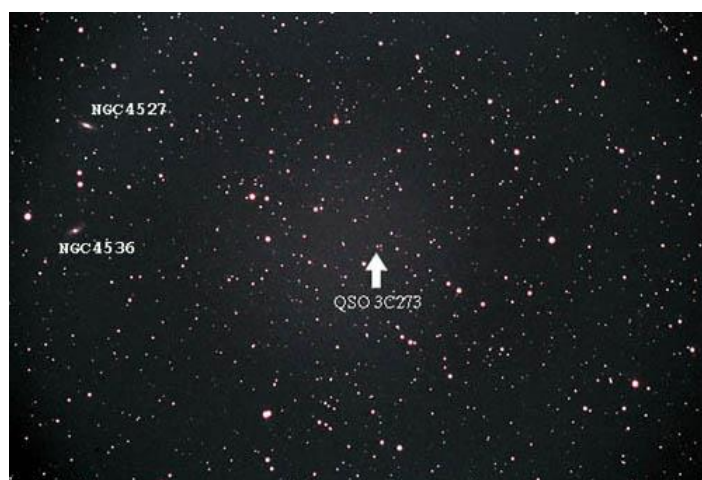
推定距離約 25 億光年の彼方にあるクェーサー。

おとめ座 γ 星ポリマから星を辿って導入します。

QSO の中では最も明るくて見易いと言われており、

13 等級のただの点にしか見えませんが、その距離を知った上で見ると、この光が我々に届くまでの気の遠くなるような時間を感じられずにはられません。

間違いなく**このドブで見える事の出来る最遠の天体**でしょうね。



最後に全員揃って記念撮影。

この時既に夜半を過ぎています。

子どもは元気ですねえ。



Photo by ヒデアキ